

基本方針 2 公私の切磋琢磨により高校の教育力を向上させます (1) 公私が力を合わせて高校の教育力向上をすすめます



【基本的方向】

- ① 就学セーフティネットの観点から、意欲あるすべての子どもが高校教育を受けることができるよう、公私あわせて高校への就学機会を確保します。
- ② 公私ともに学校情報についての公表・公開をすすめ、生徒が十分な情報のもとで自らの入りたい学校を主体的に選択できる環境づくりをすすめます。
- ③ グローバル社会で活躍できる人材や、厳しい雇用環境の中にあって社会で活躍できる人材を育成するため、公私が切磋琢磨しつつ共同での取組みをすすめます。

【重点取組の点検結果】

項目		目標 (目標年次)	計画策定時	H30 年度実績	進捗 状況	実施事業 (H30 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
5 就学機会 の確保と学 校を選択で きる環境づ くり 《基本的方 向①》	14 高校の授 業料等に係る 支援	—	—	—	—	公立高校生就学 支援金事業	◆国の交付金を活用して府内公立高校生の就 学支援金制度及び学び直し支援金制度を実施 した。
		公私を問わず自由 に学校選択で きる機会の提供	授業料無償化制 度の実施	授業料無償化制 度の実施	○	私立高等学校等 生徒授業料支援 補助金	◆授業料無償化制度を実施した。 制度の検証のため、公私の流動化状況の分 析に努めるとともに、平成 30 年度の私立高校 の新入生及び 3 年生の保護者に対し、学校選 択に関する満足度調査を実施した。
		—	—	—	—	公立高校生等奨 学給付金事業 私立高校生等奨 学給付金事業	◆平成 26 年度以降入学の 1、2、3、4 年生 を対象に、生活保護受給世帯及び道府県民税 所得割額及び市町村民税所得割額が非課税で ある世帯に対して、授業料以外の教育費の負 担軽減を目的として、奨学のための給付金を 支給した。



項目		目標 (目標年次)	計画策定時	H30 年度実績	進捗 状況	実施事業 (H30 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
5 就学機会の確保と学校を選択できる環境づくり 《基本的方向①》	15 奨学金制度の運営・運用	【公益財団法人大阪府育英会における奨学金事業】 給付型奨学金の事業資金の確保に向けた寄附金目標： 約 4,000 万円 (年額) を維持 (平成 30 年度から令和 3 年度まで)	給付型奨学金の事業資金の確保に向けた寄附金実績： 約 4,459 万円 (年額) (平成 28 年度)	給付型奨学金の事業資金の確保に向けた寄附金実績： 約 5,772 万円 (年額)	◎	公益財団法人大阪府育英会における奨学金事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆以下の取組みを実施した。 ・経済団体や、企業、病院、高齢者施設、図書館などに対し、給付型奨学金事業の意義や資金確保の必要についての情報提供を行った。 ・寄附者に対する思いを「奨学生の声」として育英会ガイドブックやホームページに掲載 ・奨学生による街頭募金を実施 ・中学校の教職員等に奨学金について説明会を実施 ・府内中学3年生全員に奨学金の趣旨等を記載したチラシを配付
		—	—	—		—	奨学金制度の周知・相談支援
	5 就学機会の確保と学校を選択できる環境づくり 《基本的方向②》	16 府立高校における広報活動の充実	—	—	—	—	広報強化推進事業
—			—	—	—	「公立高校ガイド」の作成	◆6月下旬に府内全公立高校の情報を掲載した「公立高校ガイド」(約 90,000 部)を府内の全公立中学3年生に配付し、府立高校の広報活動を行った。

項目		目標 (目標年次)	計画策定時	H30 年度実績	進捗 状況	実施事業 (H30 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
5 就学機会 の確保と学 校を選択で きる環境づ くり 《基本的方 向②》	16 府立高校 における広報 活動の充実	—	—	—	—	高校入試情報提 供事業	◆「大阪府公立高等学校・支援学校検索ナビ (咲くなび)」を運用。中学生・保護者の情報 収集や中学校の進路指導を支援するため、高 校入試に役立つ情報をシステムで提供した。
	17 私立高校 に関する学校 情報の公表・ 公開 【基本方針7 具体的取組 123の再掲】	100%をめざす	私立高校 ・財務情報： 96.9% ・自己評価： 93.8% ・学校関係者 評価：91.7% (平成28年度決 算)	・財務情報： 97.9% ・自己評価： 100.0% ・学校関係者 評価：100.0% (平成29年度決 算) ※平成30年度決算 (実績)は 令和2年3月下旬 に公表予定	○ (注)	経常費補助金の 配分	◆情報を公表していない学校については、経 常費補助金を減額して配分した。
6 公私の切 磋琢磨と連 携・協力によ る取組み 《基本的方 向③》	18 グローバ ル人材の育成 【基本方針 2(2)具体 的取組25の 一部再掲】	生徒の英語力 英検準2級相当 以上の高校3年 生の割合： 50.0%をめざす	生徒の英語力 英検準2級相当 以上の高校3年 生の割合： 36.2% (平成28年度)	生徒の英語力 英検準2級相当 以上の高校3年 生の割合： 41.4%	○	骨太の英語力養 成事業  英語教育推進事 業 	◆対象校7校でSET(スーパーイングリッシュティーチャー) によるTOEFL iBTを扱った授業を実施した。 ・iBTオンライン練習テストの実施 (府立7校、私立6校) ・生徒の海外研修支援(海外語学研修の引率 教員旅費を補助) ◆各CEFRに応じたスピーキング教材とスピー キングテスト標準型を開発し、全府立高校に 提供した(私立学校にも提供)。 ◆短期留学支援 文部科学省「高校生の留学促進事業(短期 派遣)」により、学校が主催する短期の海外派 遣プログラムに参加する生徒に対して、1人 6万円を上限とし、留学支援金の支給を行っ た(府立1校20名、私立5校65名に支援)。

(注) 目標に対する平成29年度実績の進捗状況を記載。

項目		目標 (目標年次)	計画策定時	H30 年度実績	進捗 状況	実施事業 (H30 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
6 公私の切磋琢磨と連携・協力による取組み 《基本的方向③》	18 グローバル人材の育成 【基本方針 2 (2) 具体的取組 25 の一部再掲】	英語教員の英語力			△	骨太の英語力養成事業 (再掲) 	◆対象校 7 校で SET (スーパーイングリッシュティーチャー) による TOEFL iBT を扱った授業を導入した。 ・教員への iBT 研修の実施 (計 5 回府立 22 名、私立 12 名参加) ◆英語科教員を対象としたネイティブ講師による短期集中研修を実施した。 (7/30~8/3、府立 35 名参加)
		府立高校の英語教員のうち、英検準 1 級、TOEFL550 点、TOEIC730 点以上を保有する教員の割合：75.0%をめざす	府立高校の英語教員のうち、英検準 1 級、TOEFL550 点、TOEIC730 点以上を保有する教員の割合：61.1% (平成 28 年度)	府立高校の英語教員のうち、英検準 1 級、TOEFL550 点、TOEIC730 点以上を保有する教員の割合：64.4%			
		府立高校の英語教員のうち、英検 1 級、TOEFL iBT80 点、TOEIC 1,190 点 (SW 含む)、IELTS 6.5 以上を保有する教員の割合：20%をめざす	府立高校の英語教員のうち、英検 1 級、TOEFL iBT80 点、TOEIC 1,190 点 (SW 含む)、IELTS 6.5 以上を保有する教員の割合：17.1% (平成 28 年度)	府立高校の英語教員のうち、英検 1 級、TOEFL iBT80 点、TOEIC 1,190 点 (SW 含む)、IELTS 6.5 以上を保有する教員の割合：18.9%	○		
		—	—	—	—	大阪ユネスコ・スクールネットワークの取組みの充実	◆日本/ユネスコ パートナシップ事業において「日中 ESD-GAP 推進国際ワークショップ 2018」を実施 (12 月) した。

項目		目標 (目標年次)	計画策定時	H30 年度実績	進捗 状況	実施事業 (H30 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
6 公私の切磋琢磨と連携・協力による取組み《基本的方向③》	18 グローバル人材の育成【基本方針2(2) 具体的取組 25 の一部再掲】	グローバルリーダーズハイスクールにおける現役での国公立大学進学率： 40%	グローバルリーダーズハイスクールにおける現役での国公立大学進学率： 38.2% (平成 28 年度)	グローバルリーダーズハイスクールにおける現役での国公立大学進学率： 40.9%	○	グローバルリーダーズハイスクール支援事業	◆10 校共同の取組みを実施した。 ・海外派遣研修(生徒 20 名をミッション大学などに派遣 7/28～8/5)にかかるとの事前研修 ・京都大学・大阪大学と連携した取組み(京大キャンパスガイド(11/4)、阪大ツアー2018(11/17)など) ・10 校合同発表会(2/9、大阪大学コンベンションセンター)
		国際科学オリンピックなど、国際大会(コンクール、コンテストなど)への出場者数： 5 名	国際科学オリンピックなど、国際大会(コンクール、コンテストなど)への出場者数： 2 名 (平成 28 年度)	国際科学オリンピックなど、国際大会(コンクール、コンテストなど)への出場者数： 6 名	○		
		スーパーグローバル大学(トップ型)指定校及びグローバルサイエンスキャンパス採択校(合計 21 大学)への進学者数(現役生+既卒生(一年浪人まで))： 1,300 人	スーパーグローバル大学(トップ型)指定校及びグローバルサイエンスキャンパス採択校(合計 21 大学)への進学者数(現役生+既卒生(一年浪人まで))： 1,190 人 (平成 28 年度)	スーパーグローバル大学(トップ型)指定校及びグローバルサイエンスキャンパス採択校(合計 21 大学)への進学者数(現役生+既卒生(一年浪人まで))： 1,123 名	△		

項目		目標 (目標年次)	計画策定時	H30 年度実績	進捗 状況	実施事業 (H30 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
6 公私の切磋琢磨と連携・協力による取組み 《基本的方向③》	19 理数教育の充実	国際科学オリンピック世界大会への出場	国際科学オリンピック全国大会での入賞	国際科学オリンピックに820名が参加し、うち28名が入賞 【参考】 国際物理オリンピックの日本代表に1名選出。	△	おおさかグローバル人材育成事業	◆以下の取組みを行うとともに、SSN 参加校以外にも参加を促した。 ・京都・大阪数学コンテストを実施した。 (7/15、28校187名参加(うちSSN以外の学校15校80名)) ・SSN 連携校の協力のもと、大阪サイエンスデイ「大阪府生徒研究発表大会」を開催した。 (1部:10/20、20校(うちSSN以外の学校2校)、2,000名超の来場者。 2部:12/23、20校(うちSSN以外の学校2校)、700名超の来場者) ・大阪工業大学との共催で「科学の甲子園大阪府大会」を開催した。 (10/21、20校(うちSSN以外の学校5校)131名の高校生がエントリー(補欠含む))
		SSN 参加校: 公私合わせて25校 (SSN:サイエンス・スクール・ネットワーク)	SSN 参加校: 公私合わせて18校 (平成29年度)	SSN 参加校: 公私合わせて18校	△		
	20 キャリア教育の充実	公立・私立高校卒業者の就職率: 全国水準をめざす	公立・私立高校卒業者の就職率: 95.1% (※全国:98.0%) (就職者の就職希望者に対する割合) (平成28年度)	公立・私立高校卒業者の就職率: 95.2% (※全国:98.2%)	△	校内支援体制の充実 	◆これまでに構築した校内体制及び就職支援に関する情報やノウハウを進路指導担当教員に周知し、校内支援体制の充実を図った。 ◆職業教育テキストを授業等で活用することにより、生徒の職業観の育成を図った。
21 支援教育の充実	—	—	—	—	地域支援整備事業 	◆私立学校園に通う特別な配慮を要する児童生徒の困難さやニーズに対する支援に取り組んだ。	

項目		目標 (目標年次)	計画策定時	H30 年度実績	進捗 状況	実施事業 (H30 年度)	
重点取組	具体的取組					事業名	実施内容
6 公私の切磋琢磨と連携・協力による取組み 《基本的方向③》	22 教員研修や学校現場での教員交流の実施	相互授業見学会の継続実施 (平成30年度から)	相互授業見学会の開催：9校 (平成29年度)	相互授業見学会の開催：16校	◎	相互授業見学会	◆公立学校と私立学校の双方が、授業を公開することにより、互いの授業力を高めあった。
	23 授業改善への支援	「主体的・対話的で深い学び」が学校現場で定着するための授業づくり研修受講者の肯定的評価：90%以上 (平成30年度から)	「主体的・対話的で深い学び」が学校現場で定着するための授業づくり研修を実施 (平成29年度)	「主体的・対話的で深い学び」が学校現場で定着するための授業づくり研修受講者の肯定的評価：82.45%	×	10年経験者研修 教育重点課題	◆新学習指導要領の理念や育成をめざす資質能力の3つの柱について理解し、各教科等の特質に応じた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりに関する指導力の向上を図る研修を実施した。
		平成30年度から令和4年度までに延べ75校でパッケージ研修を実施	府立高校に対し、パッケージ研修を実施：10校 (平成29年度)	府立高校に対し、パッケージ研修を実施：延べ17校		○	パッケージ研修支援
	24 教育相談等による課題を抱える子どもへの支援	—	—	—	—	教育センターにおける相談機能の充実 	◆様々な悩みを持つ子どもや保護者等に対し、効果的かつ効率的な相談を実施した。 ・専用電話相談の実施 ・24時間相談窓口の実施 ・教職員の悩みの相談の実施 ・対面相談の実施 ・集中電話相談の実施及びインターネットによるメール相談の実施 ・SNSを活用した相談の実施 ◆大阪府高等学校教育支援センターにおいて、心理的または情緒的な原因などによって、登校の意志があるにもかかわらず登校できない状態にある高校生を対象に、学校復帰を支援し、社会的自立をめざした学習支援や心理支援を行った。

【指標の点検結果】

指標	目標値 (目標年次)	計画策定時	H30 年度実績	点検結果	
○指標 6 私立高校における学校情報の公表状況	いずれについても 100%をめざす	私立高校 財務情報：96.9% 自己評価：93.8% 学校関係者評価：91.7% (平成 28 年度決算)	私立高校 財務情報：97.9% 自己評価：100.0% 学校関係者評価：100.0% (平成 29 年度決算) ※平成 30 年度決算（実績）は令和 2 年 3 月下旬に公表予定	○ (注)	平成 30 年度実績は、財務情報については、計画策定時の実績を 1 ポイント上回った。自己評価及び学校関係者評価については、計画策定時の実績をそれぞれ 6.2 ポイント、8.3 ポイント上回り、100%となった。
○指標 7 府立高校 3 年生のうち英検準 2 級相当以上の割合	50%をめざす	36.2% (全国：36.4%) (平成 28 年度)	41.4% [平成 29 年度実績 38.6%]	○	平成 30 年度実績は、計画策定時の実績を 5.2 ポイント、昨年度の実績を 2.8 ポイント上回った。
○指標 8 府立高校の英語教員のうち、英検準 1 級、TOEFL550 点、TOEIC730 点以上を保有する教員の割合	75%をめざす	61.1% (全国：62.2%) (平成 28 年度)	64.4% [平成 29 年度実績 64.6%]	△	平成 30 年度実績は、昨年度の実績を 0.2 ポイント下回ったものの、計画策定時の実績を 3.3 ポイント上回った。
○指標 9 府立高校の英語教員のうち、英検 1 級、TOEFL iBT80 点、TOEIC 1,190 点 (SW 含む)、IELTS 6.5 以上を保有する教員の割合	20%をめざす	17.1% (平成 28 年度)	18.9% [平成 29 年度実績 18.0%]	○	平成 30 年度実績は、計画策定時の実績を 1.8 ポイント、昨年度の実績を 0.9 ポイント上回った。

(注) 目標に対する平成 29 年度実績の進捗状況を記載。

【基本方針 2 (1)】

指標	目標値 (目標年次)	計画策定時	H30 年度実績	点検結果	
○指標 10 公立・私立高校卒業者の就職率(就職者の就職希望者に対する割合)	全国水準をめざす	95.1% (全国：98.0%) (平成 28 年度)	95.2% (全国：98.2%)	△	平成 30 年度実績は、全国平均との差が 3.0 ポイントであった。
・ 府立高校卒業者の就職率 (就職者の就職希望者に対する割合) 【基本方針 2 (2) 指標 12 の再掲】	全国水準をめざす	95.1% (全国：98.0%) (平成 28 年度)	94.3% (全国：98.2%)	△	平成 30 年度実績は、全国平均との差は 3.9 ポイントであった。
・ 私立高校卒業者の就職率 (就職者の就職希望者に対する割合) 【基本方針 2 (3) 指標 19 の再掲】	全国水準をめざす	92.4% (全国：97.7%) (平成 28 年度)	95.1% (全国：97.9%) 〔平成 29 年度実績 91.4%〕 (全国：97.9%)	○	平成 30 年度実績は、計画策定時の実績を 2.7 ポイント上回ったものの、全国水準を 2.8 ポイント下回った。

【自己評価】

【基本的方向①】 就学セーフティネットの観点から、意欲あるすべての子どもが高校教育を受けることができるよう、公私あわせて高校への就学機会を確保します。

- ・高校の授業料無償化や奨学金制度により、公私を問わず自由に学校選択できる機会を保障し、昼間の高校への進学率が無償化制度導入前と比べて上昇するとともに、私立高校へ進学する割合も同制度導入前と比べて増加した。

【基本的方向②】 公私ともに学校情報についての公表・公開をすすめ、生徒が十分な情報のもとで自らの入りたい学校を主体的に選択できる環境づくりをすすめます。

- ・府立高校については、「大阪府公立高等学校・支援学校検索ナビ（咲くなび）」の運用など広報活動に取り組んだ。
- ・私立高校については、情報未公表の場合は、私立高校に対する経常費補助金の配分において減額要素としている。目標達成に向けて、引き続き、全ての学校に公表の重要性について理解を得られるよう説明し、個別に進捗状況を確認しながら、情報の公表に努めるよう働きかけていく。

【基本的方向③】 グローバル社会で活躍できる人材や、厳しい雇用環境の中にあって社会で活躍できる人材を育成するため、公私が切磋琢磨しつつ共同での取組みをすすめます。

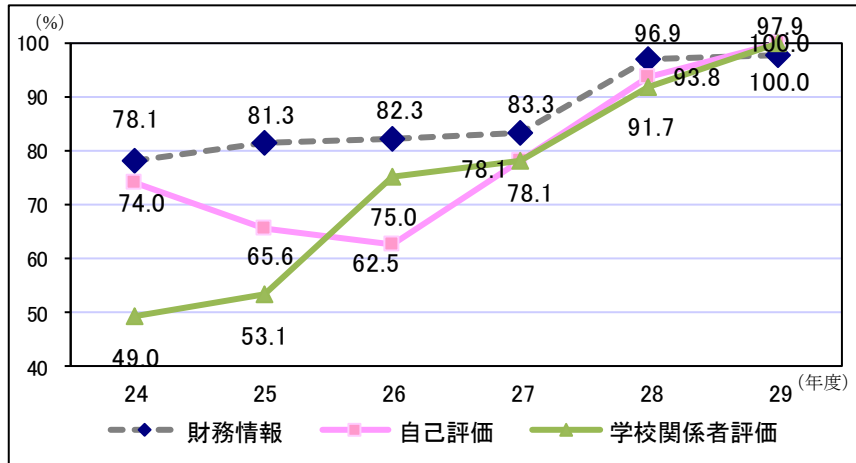
- ・英語教育については、TOEFL iBT を扱った授業やオンライン練習テストを「骨太の英語力養成事業」対象校で実施した。また、各 CEFR に応じたスピーキング教材とスピーキングテスト標準型を開発し、全府立・私立高校へ提供した。さらに、各校におけるスピーキング指導を推進する教員の育成をめざした短期集中教員研修を実施した。英検準 2 級相当以上の府立高校 3 年生の割合は、昨年度実績より 2.8 ポイント増の 41.4% となった。一方、英検準 1 級、TOEFL550 点、TOEIC730 点以上を保有する府立高校の英語教員の割合は、昨年度より 0.2 ポイント減の 64.4% となった。しかし、英検 1 級、TOEFL iBT80 点以上、TOEIC1,190 点以上、IELTS6.5 以上を保有する府立高校の英語教員の割合は、昨年度の実績を 0.9 ポイント上回り、18.9%となった。今後は、すべての学校の授業改善を目標とした研修や生徒の目標に応じた支援を実施する。
- ・キャリア教育については、これまでに構築した校内体制及び就職支援に関する情報やノウハウを進路指導担当教員に周知し、校内支援体制の充実を図ったが、目標である全国水準（就職率）とは開きがあるため、今後、検証をすすめるとともに、必要な改善策について検討する。

【基本方針2（1）】

- 公私共同の取組みについては、府教育委員会事業について私立学校に情報提供を行うとともに、私学団体における研修会に講師を派遣するなど、私学団体における研修事業を支援した。また、進路指導の担当者を対象とした就職差別の未然防止及び早期対応のための説明会を開催し、教員の資質向上に寄与した。今後も、情報提供等を通じて、私立学校の教員の資質向上に寄与していく。

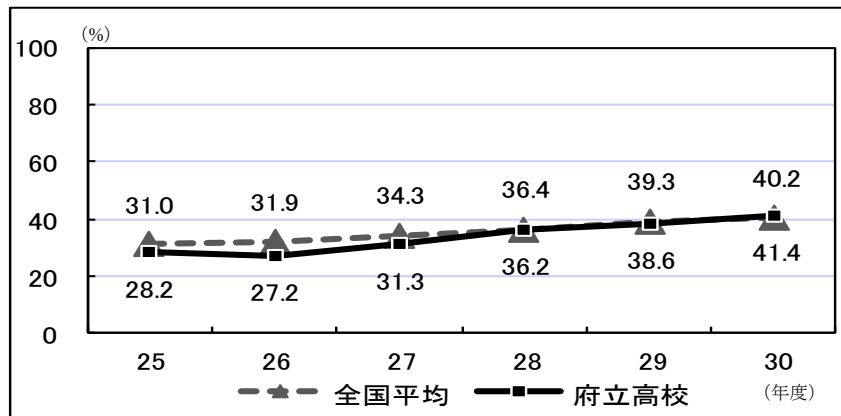
(参考)

◆指標 6 私立高校における学校情報の公表状況



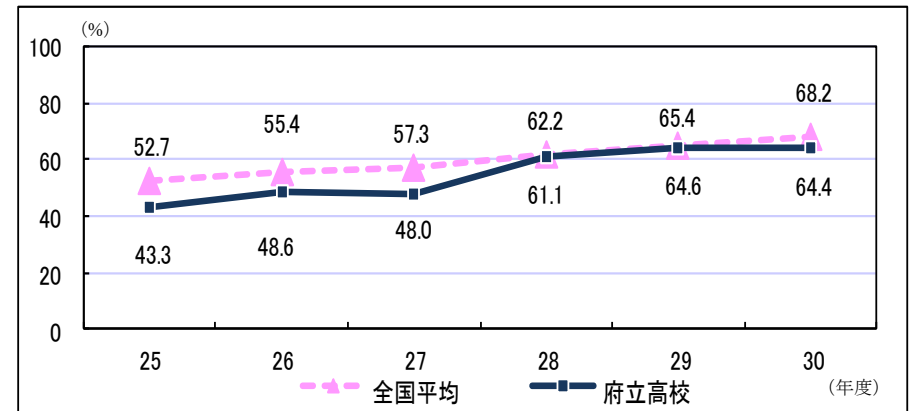
※府教育庁調べ

◆指標 7 府立高校3年生のうち英検準2級相当以上の割合



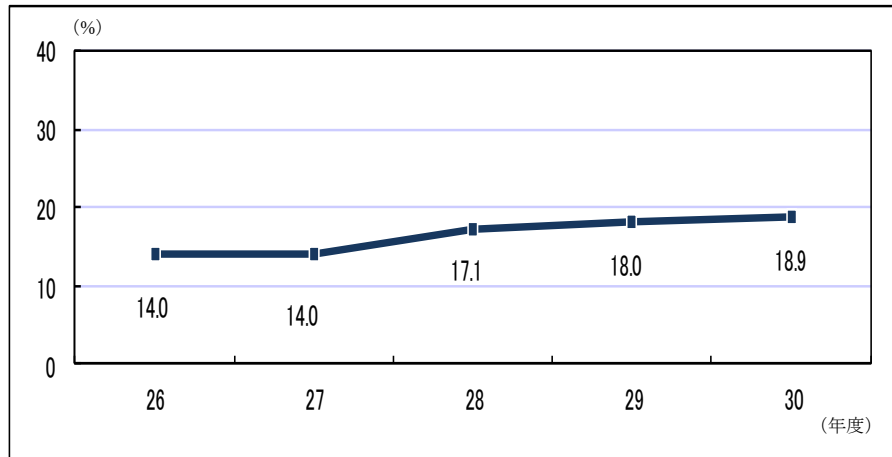
※府教育庁調べ

◆指標 8 府立高校の英語教員のうち、英検準1級、TOEFL iBT550点、TOEIC730点以上を保有する割合



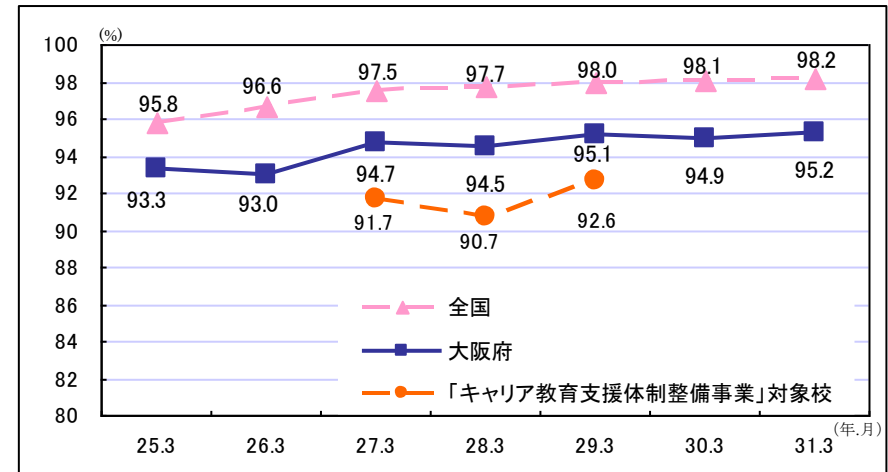
※府教育庁調べ

◆指標 9 府立高校の英語教員のうち、英検 1 級、TOEFL iBT80 点、TOEIC 1,190 点 (SW 含む)、IELTS6.5 以上を有する教員の割合



※府教育庁調べ

◆指標 10 公立・私立高校卒業者の就職率
(就職者の就職希望者に対する割合)



※府教育庁調べ及び文部科学省「高等学校卒業者の就職状況調査」
 ※「キャリア教育支援体制整備事業」
 対象校 37 校 (府立高校 32 校、私立高校 5 校 ※H28 年度)